

市民文芸

短歌

令和五年度
阿南市文化祭秋季短歌誌上天会選

入選

田の守り誰の為でもないけれど祖より受け継ぎ
今日も見廻る 高尾 久枝

女孫より入籍したとメール来る絵文字飛び交う
夏の出来事 松江 敬子

賀代ちゃんが私作った手揉茶と別れに呉れし故郷の香り
西田 修身

「お前より一日先に逝くんじゃ」と言いし夫の三十三回忌
入谷五十鈴

山風の吹き抜く小屋の小一畳梅漬け茶を漬け吾の夏真盛り
井上 京子

蒼穹の底に一筆すじ雲のはらいの先はふるさとの峰
郡 雅和

澄み渡る秋の墓苑に一束の菊の香りと擦れ違いたり
木内 照代

「足るを知る」童安寺の蹲いに笥より水流れてこぼる
澤田 素子

身も世もなく恋せし人の面影を今宵の月の褥にひらふ
松尾 初夏

叱られて夕餉もとらず寝ねし子が夜半に厨を歩く音する
金本ひろみ

俳句

阿南市俳句連合会選

冬の月広き大空一人じめ
多田紀久代

サイレンと火事の放送その後は
陶久 晴義

雪の道戻りし猫の胴震い
岡本 隆子

新しき文具に名人れ春を待つ
藤井李華女

赤子にも一枚届く年賀状
島 玲子

尺八の乙音澄める淑気かな
庄野 早苗

初春の空は無限や二十の娘
谷中喜代子

若水を井戸にいたたく昭和の世
青木 慧

白銀の飛行機目で追う春隣
中川よし子

目出度さも萎える災禍の三が日
山野 賢治

せつかちは周りの人も急かします
近藤 大地

お洒落してマイクを持ってばズボン落ち
篠原 良子

訳ありのリングで作る妻のパイ
鈴木レイ子

高齢に優しい嘘をありがとう
西田 修身

アルバムと優しい時間日向ぼこ
持木 寿栄

式典で行ったり来たり嫁の父
若木アヤ子

こんなにも酷い試練の震度七
渡邊 浪漫

一般応募

祖母の手をやさしく握りまた来るね
島尾美津子

心ない鳥に耐えうる木守柿
泰地 重美

川柳の種を拾った立ち話
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

早春偶興

増喜 泰典

溪上謳春有早鶯
早鶯有り

梅花馥郁動吟情
吟情を動かす

好音一闋遷幽谷
幽谷を遷り

香裏流連送鳥聲
鳥声を送る

金魚

大地 和子

玻璃瓶裏養金魚
金魚を養う

積水澄明身晏如
身は晏如

醒睡誰妨別天地
別天地

脩鱗微動夢華胥
華胥を夢む

惜春

市田 嘉則

麗日暖風梅柳新
梅柳新たに

花清三月鳥聲頻
鳥声頻りなり

朝來無客閑天地
天地閑なり

九秩餘生惜晚春
晩春を惜しむ

おわびと訂正

2月号掲載の短歌が1首間違つて掲載しましたので、おわび申し上げます。正しくは次のとおりです。

誤 百枚の棚田の稲穂豊かなり農夫の嘆く米の安値を

森岡 政子

正 世界一優しい語尾は阿南弁「ごはんにする『け?』」

今日スダチ麵 森岡 政子